

スポーツを活用したまちづくり推進ビジョン

1 策定の趣旨

本市では、これまで、生涯スポーツの推進に向けて、「ひとり1スポーツ^{*1}」を基本理念として掲げ、市民スポーツの振興に取り組むとともに、経済活性化や都市ブランド力の向上に向けて、スポーツを活用した観光振興や交流人口の増加等に取り組んできた。

近年、スポーツは、様々な分野と連携・融合させることで、市民の健康増進や地域の活力向上など、まちづくりに好循環や波及効果をもたらす鍵として再認識されている。

こうした中、本市は、プロスポーツチームなどのスポーツ資源や大学等の研究機関、産業団地が集積するなど、スポーツが研究や産業などと連携・融合しやすい環境にあり、スポーツの成長産業化や地域経済の好循環の創出に向けた高いポテンシャルを秘めている。

こうした状況を捉え、これまでの取組も踏まえながら、行政をはじめ、大学等の研究機関や事業者などの多様な主体が連携するとともに、スポーツと様々な分野を連携・融合できる機会・場を創出し、スポーツが有する効果や価値を最大限高める取組を推進することで、市民のウェルビーイング^{*2}の向上やシビックプライドの醸成を図り、「スポーツのまちうつのみや」の実現を加速化できるよう、本ビジョンを策定するもの。

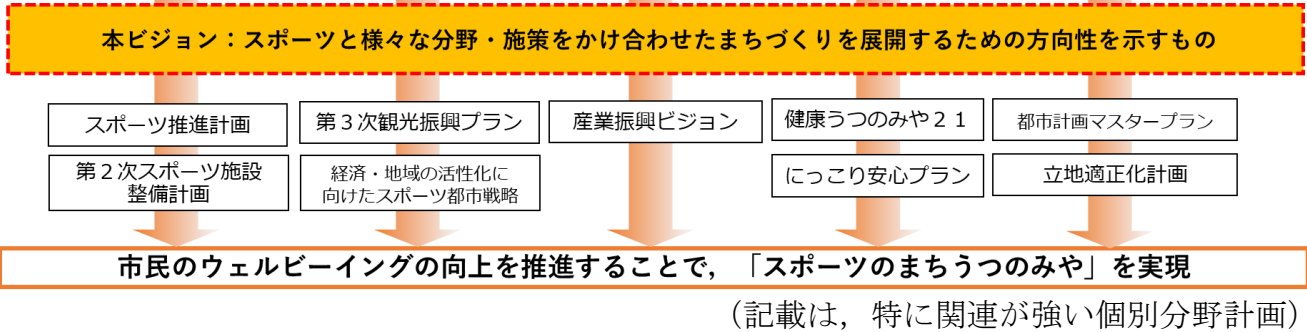
^{*1}だれもが、いつでも、いつまでも、スポーツを楽しむ 生涯スポーツ社会の実現
^{*2}子どもから高齢者まで、一人ひとりの自己実現が守られ、身体的・精神的・社会的にも「良好な状態」

2 本ビジョンの位置づけ

「スポーツのまちうつのみや」の実現に向けて、スポーツと様々な分野を掛け合わせながらまちづくりを推進できるよう、第6次総合計画基本計画（後期計画）を補完する個別分野計画に対して、分野横断的に方向性を示すもの。

第6次総合計画基本計画（後期計画）・個別分野計画と本ビジョンとの関係性

第6次総合計画基本計画（後期計画）の政策の柱・政策（抜粋）	
【政策の柱1 子育て・教育の未来都市】	1 全ての子どもが安心して健やかに成長できる社会の実現 ・ 3 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会の実現
【政策の柱2 健康・福祉の未来都市】	4 誰もが心身ともに健康に生活できる社会の実現
【政策の柱4 魅力創造・交流の未来都市】	8 地域資源を守り、活用した賑わいと活力ある社会の実現 ・ 9 着実な定住の促進や移住・関係人口の増加による持続可能な地域社会の実現
【政策の柱6 交通の未来都市】	12 魅力的で持続可能な都市空間の形成 ・ 13 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークの実現（自転車のまち）

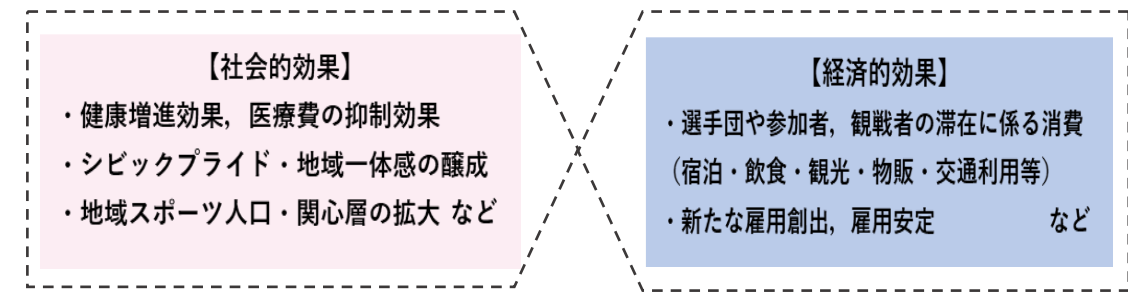


3 目標年次

概ね2030年頃^{*3}を目途

^{*3}第6次総合計画基本計画（後期計画）において、概ね2030年頃を見据えた具体的なまちの姿として「スーパースマートシティ」を掲げており、本ビジョンも整合を図る。

4 スポーツを活用したまちづくりの効果



●健康増進効果

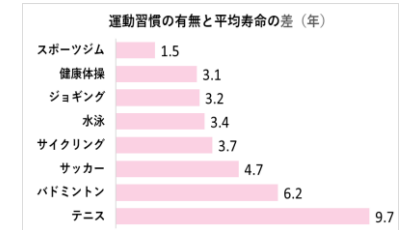
- 運動習慣の有無で平均寿命の差が顕著
 出典) コペンハーゲン調査。無作為抽出した成人 8,577 名を 25 年間追跡調査

●医療費抑制効果

- 1日10分間歩行(1,000歩)で1,341円/月の医療費抑制
 出典) 東北大学大学院医学系研究科 辻教授

●経済効果

- 「FIBA3x3 ワールドツアーうつのみやオープナー2023」
 → 3日間で約7万人が来場、推計約5億8,640万円の経済効果
- 「2023 ジャパンカップサイクルロードレース」
 → 3日間で約13万人が来場、推計約31億2,200万円の経済効果
- 「第77回国民体育大会 いちご一会国体」
 → 11日間で約15万人が参加・来場、推計約39億円の経済効果



5 本市を取り巻く環境

(1) 国や県の動向

・国では、「第3期スポーツ基本計画（R4～R8）」に基づき、スポーツを地域創生や社会課題の解決に活用する動きを更に加速化。また、スポーツコンテンツの魅力向上や、スタジアム・アリーナを核としたまちづくりの更なる推進、スポーツと他産業との連携によるイノベーションの創出促進などにより、「みる」スポーツと地域スポーツの好循環を促進し、スポーツの成長産業化を目指す「スポーツ産業ビジョン」を策定予定（R5年度中）。

・県では、「栃木県スポーツ推進計画2025（R3～R7）」に基づき、スポーツ参画人口の拡大、スポーツ施設の充実、スポーツによる地域活性化、選手育成等を推進。また、令和5年7月には、スポーツ大会・イベントやスポーツ合宿等の誘致、スポーツと組み合わせた観光・地域づくり等を推進するため「栃木県スポーツコミッション」を設立。

(2) 本市の状況

・市では、「スポーツ推進計画（H27～R6）」に基づき、ライフステージに応じたスポーツ活動、総合型地域スポーツクラブなどによる「生涯スポーツ」の推進、スポーツ関係団体への支援、地域体育施設等の環境の整備・充実など、市民スポーツの振興に取り組む。

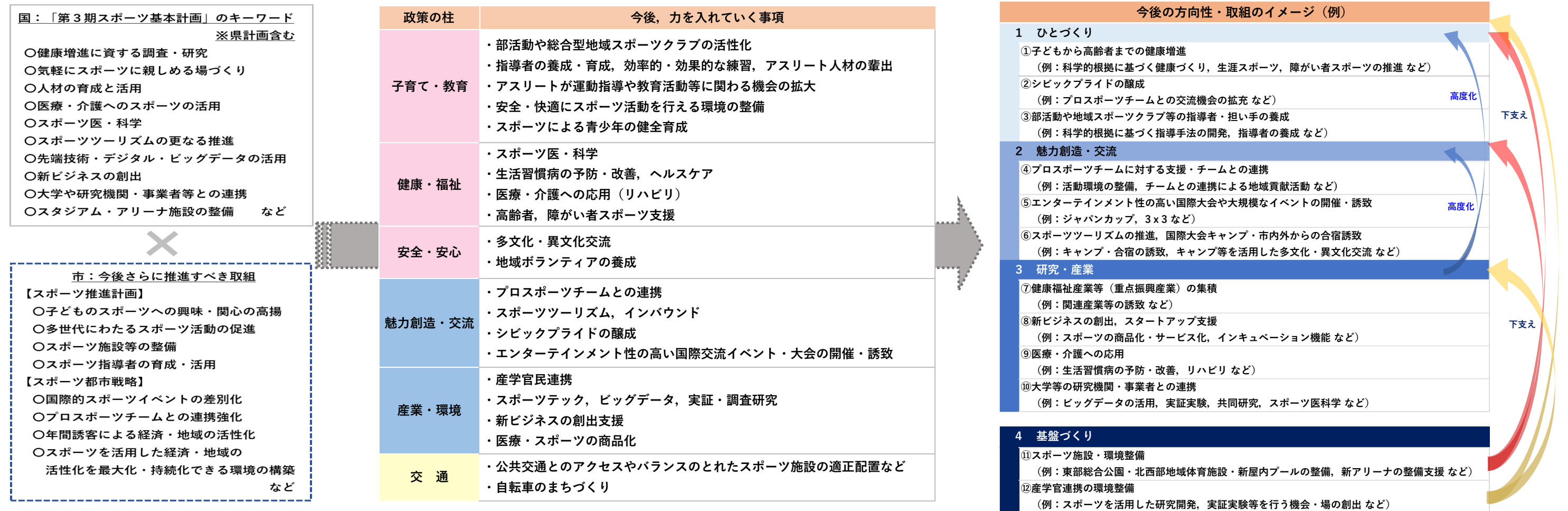
・「スポーツ都市戦略（R4～R13）」に基づき、エンターテインメント性の高い3x3などの国際大会の誘致・開催、市内3プロスポーツチームに対する支援・チームとの連携による地域・教育活動など、都市ブランド力の向上やシビックプライドの醸成を図り、経済・地域の活性化を強力に推進。

・本市は、プロスポーツチームなどのスポーツ資源や大学等の研究機関、産業団地が集積するなど、スポーツが研究や産業などと連携・融合しやすいポテンシャルを有している。そうした中、更なる経済活性化や産業振興に向けて、重点振興産業の集積を図る新たな産業団地の確保などに取り組んでいる。

6 スポーツを活用したまちづくりに向けた今後の取組の方向性

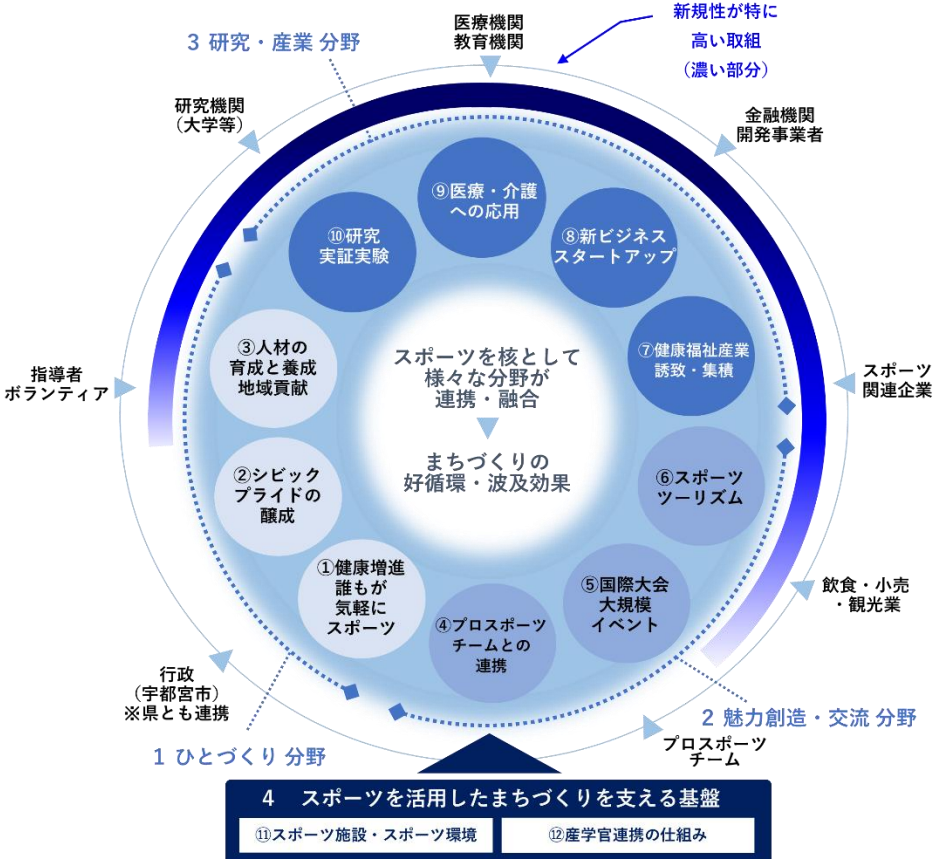
(1) 基本的な考え方

子どもから高齢者まで、誰もがスポーツを通して自己実現が図られる「スポーツのまちうつのみや」の確立に向け、これまでの「ひとづくり」や「魅力創造・交流」の取組をより充実していくことに加え、「ひとづくり」や「魅力創造・交流」の高度化・高付加価値化に寄与する「研究・産業」の取組を推進するとともに、それぞれの取組を下支えする基盤を整備していく。なお、具体的な取組については、個別分野計画の中でさらに検討・反映していく。

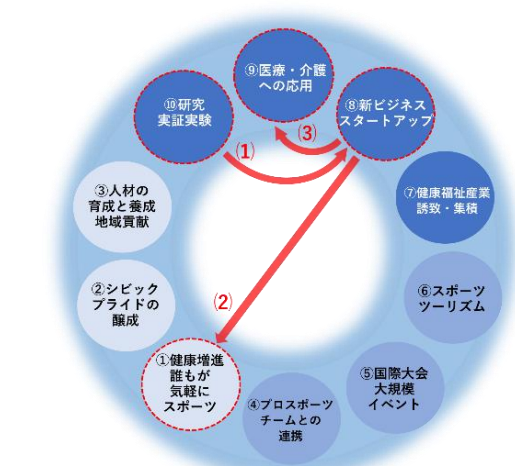


(2) 目指すべきスポーツを活用したまちづくりの姿

<本市のスポーツを活用したまちづくりのあるべき姿>

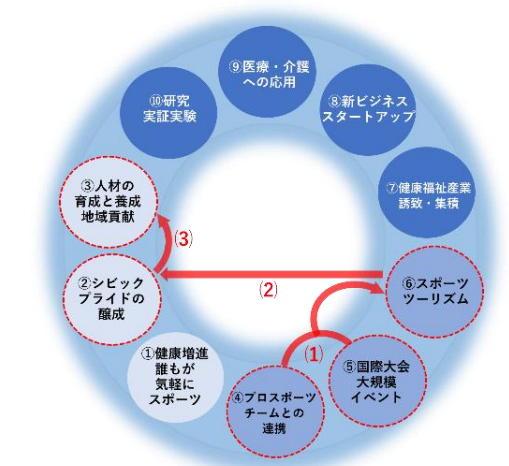


・本市のスポーツを活用したまちづくりのあるべき姿の実現に向けて、「ひとづくり」や「魅力創造・交流」、「研究・産業」の各分野において、スポーツを核とした取組・活動を大学等の研究機関や事業者など、様々な関係者が連携しながら展開していくとともに、それぞれの取組を互いに連携・融合させながら、相乗効果を創出していく。こうした取組を積み重ねていくことで、ウェルビーイングの向上を図り、「スポーツのまちうつのみや」を実現していく。



【取組の相乗効果のイメージ 1】

産学連携により研究開発された新たな技術（スポーツテック）が、新ビジネス（サービス）となり、日常生活における健康増進（気軽にスポーツ）や、介護サービスに採り入れられる。
例）運動記録アプリの開発、スポーツ用品の商品化 など

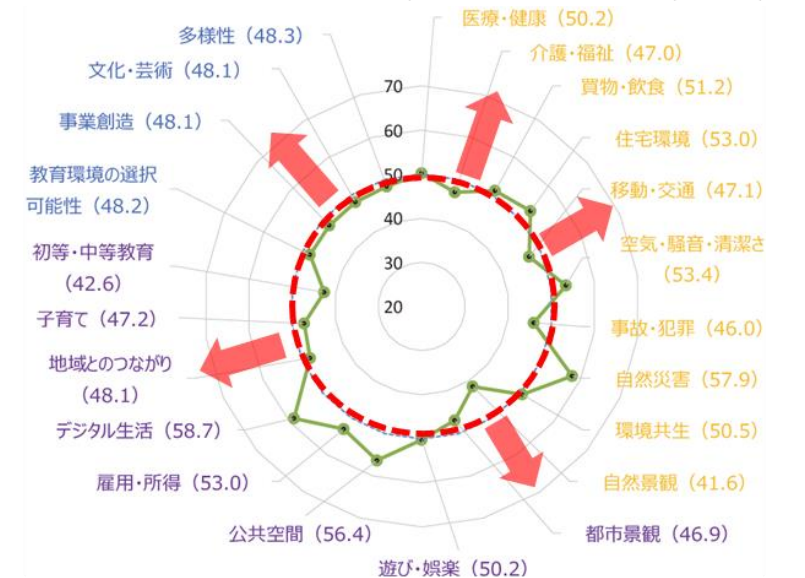


【取組の相乗効果のイメージ 2】

プロスポーツチームの国際大会をきっかけとして、シビックプライドの高まりから、スポーツ人口や担い手（ボランティア、指導者等）の増加につながる。
例）新アリーナを活用した観戦型スポーツツーリズム など

LWC（Liveable Well-Being City）指標から見た本市の「暮らしやすさ」

出典）第6次総合計画基本計画（後期計画）

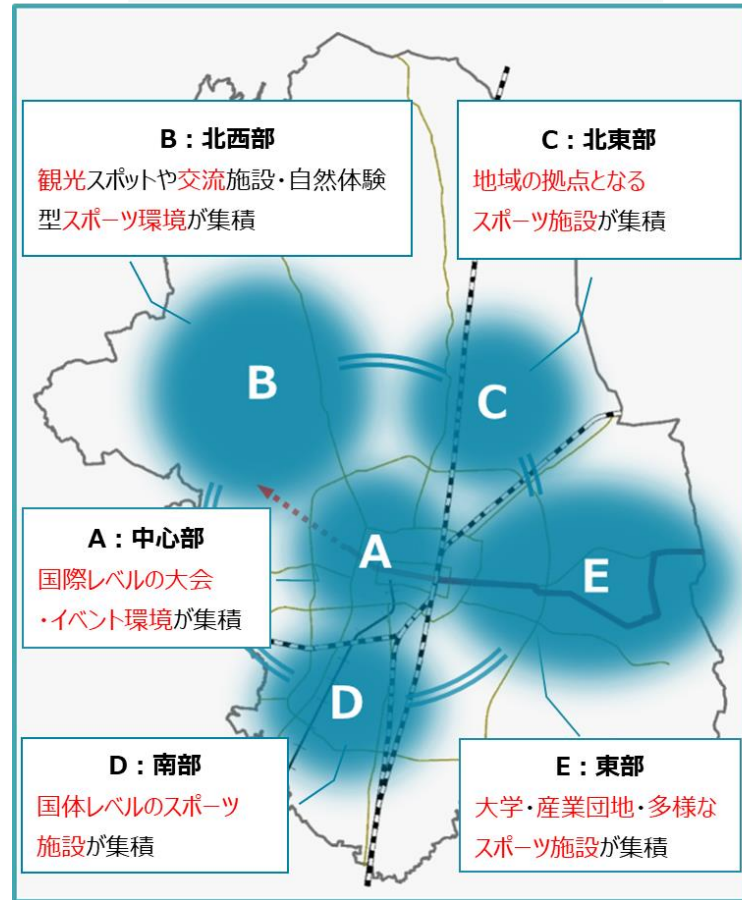


⇒ 全体的な底上げを図るとともに、強みは更に伸ばすことでウェルビーイングの向上に寄与

7 取組や活動を支える基盤づくり

- ・「ひとづくり」においては、市域全体で、スポーツ施設の整備や地域スポーツの促進などにより、全ての市民が身近な地域で気軽にスポーツや健康増進などに取り組める環境を整えていく。
- ・「魅力創造・交流」や「研究・産業」においては、各圏域の特色や強みを生かしながら、高い経済効果をもたらす「新アリーナ」の整備支援や街中ならでの「魅せる」スポーツの展開などを図るとともに、スポーツを活用した研究開発・実証実験、新産業の創出などに向けた基盤づくりを強化していくこととし、必要な施設の立地を進めていく。
- ・なお、スポーツ振興や健康増進、新産業の創出等に資する公共施設については、配置バランス・規模・機能の適正化や複合化などを推進していく。

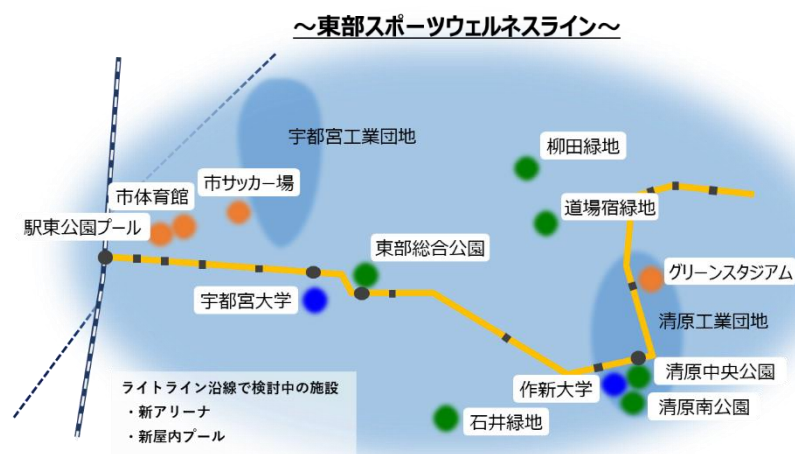
<圏域の特色等（主なもの）>



圏域	圏域の特色等
A：中心部	・ジャパンカップやFIBA3x3など国際レベルの大会や大型イベントを開催。街中ならでの「魅せる」スポーツにより、賑わい創出や市街地の活性化等を積極的に展開。
B：北西部	・大谷やろまんちっく村、森林公園など、観光スポットや交流施設、自然体験型スポーツ環境が集積。 ・北西部地域における生涯スポーツの受け皿として、地域体育施設の整備に取り組む。
C：北東部	・河内総合運動公園には、ドリームプールかわちなど北東部の拠点となるスポーツ施設が集積。プロサッカーチームも活動。河内総合福祉センターなどの健康増進施設あり。
D：南部	・栃木県総合運動公園では、栃木県による総合スポーツゾーンの整備促進など、新たな地域の顔となるスポーツ・レクリエーションの拠点として形成。国体レベルのスポーツ施設が集積。
E：東部	・ライトライン沿線には、複数の大学や産業団地、多様なスポーツ施設等が集積している。 ・ライトライン開業により交通利便性が高く、トランジットセンター周辺等で地域特性に応じた拠点の形成が図られるなど、ポテンシャルが高まっている。

ライトライン沿線はスポーツ施設や大学、産業団地等が立地するなど、ポテンシャルが高いことを踏まえ、「**東部スポーツウェルネス^{※3}ライン**」として打ち出し、スポーツと様々な分野を掛け合わせた研究や産業活動など産学官連携の取組を強化。

※3 生活・社会環境を基盤とし、誰もがスポーツを通して、心身ともに健康で生き生きとした自己実現を図れている状態



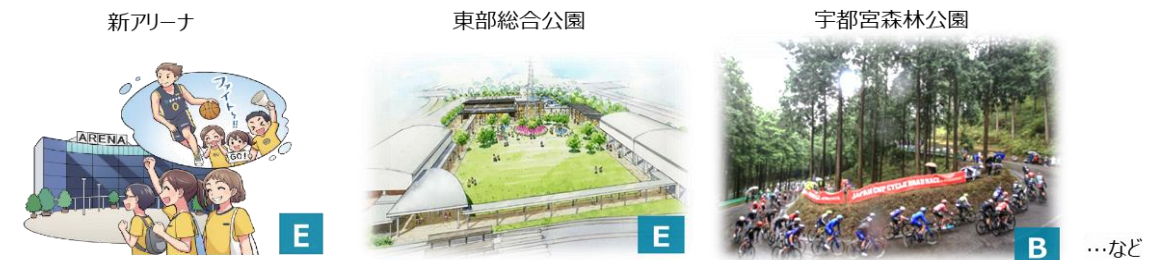
1 ひとづくり（身近なスポーツ環境）

▽市域全体において、身近な地域で気軽にできるスポーツや健康増進など「ひとづくり」の環境を整備（主なもの：北西部地域体育施設や新屋内プールの整備など）



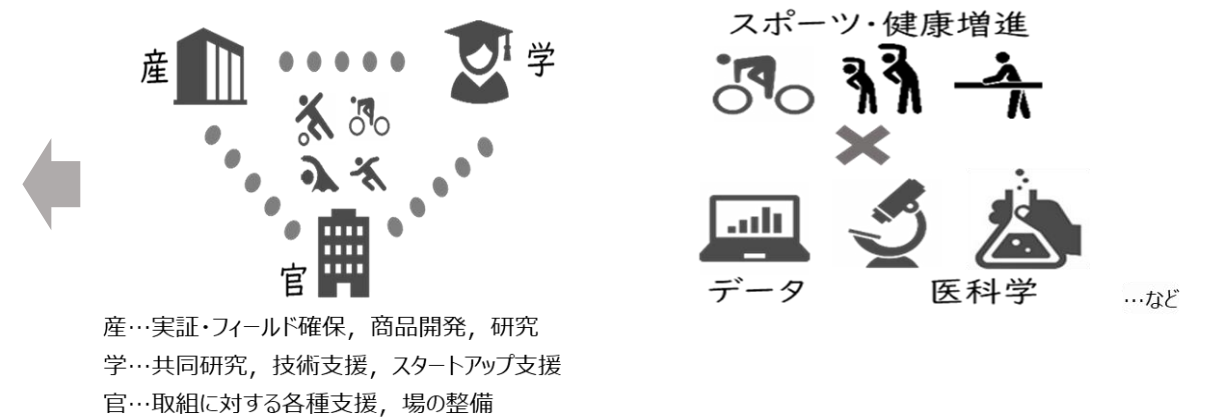
2 魅力創造・交流（見るスポーツ施設、イベント環境）

▽各圏域の特色や強みを生かしながら、都市の「魅力創造・交流」機能を充実（主なもの：新アリーナの整備支援、東部総合公園の新たな整備、宇都宮森林公園のリニューアル）



3 研究・産業（産学官連携の機会・場） E

▽産学官連携による「研究・産業」機能の向上を図るための基盤づくり（「東部スポーツウェルネスライン」での取組強化）



8 推進に向けて

スポーツを活用したまちづくりの推進に向けて、これまでのスポーツ振興や観光振興などの取組を強化するとともに、スポーツビジネスや新産業の創出など、幅広い分野との融合や関係者間のコーディネートが必要となることから、産・学・官の団体等が連携し、進むべき方向性や新たな事業の創出などについて議論を行うプラットフォームを構築する。